

養豚国際フォーラム2011 開催要項

- 日時 2011年11月28日(月) 午後1時~午後5時半
11月29日(火) 午前8時半~午後4時半
※懇親会 11月28日午後6時~
- 場所 中野サンプラザ
東京都中野区中野4-1-1 TEL 03-3388-1166
JR中野駅 北口駅前
- 参加費 1人 40,000円(2日間受講料、税込み、2日目昼食代を含む)
ただし、10月31日(月)までのお申し込みは早割を適用 1人 30,000円
※懇親会参加費 1人 5,000円
特別枠 学生 1人 2,500円
- 申し込み締め切り 11月15日(火) ※ただし、会場が満員になり次第締め切りますので、お早めにお申し込みください。
●申し込み方法 申込用紙に、必要事項をすべてご記入の上、FAXでアニマル・メディア社までお送りください。
折り返し、参加費の請求書および事前振込のご案内を送付させていただきます。
※宿泊をご希望の方は、申込書に○印をお付けください。
- 企画・主催 (問い合わせ先) 株式会社アニマル・メディア社(永野、岩田)
〒113-0034 東京都文京区湯島2-12-5 TEL 03-3818-8501 FAX 03-3818-8502
(有)ベネット(中村、青木)
〒164-0001 東京都中野区中野5-32-4 TEL 03-5913-2627 FAX 03-5913-2628

FAX 03-3818-8502 養豚国際フォーラム2011申込書

農場・会社名(部署名) _____

参加者氏名(複数の場合は連絡用代表者名) _____

住所(〒 _____) _____

電話 _____ FAX _____

申し込み内容 下記の表に人数分すべてご記入ください。足りない場合はコピーして2枚目と明記し、ご返送くださいますようお願いいたします。
懇親会、宿泊施設紹介の項は、ご希望の項目を○で囲んでください

	①		②		③		④	
参加者名								
農場・会社名								
懇親会	参加	不参加	参加	不参加	参加	不参加	参加	不参加
宿泊施設紹介	要	不要	要	不要	要	不要	要	不要

その他連絡事項

養豚国際フォーラム2011

激動する世界の豚肉事情と ~国内養豚が乗り越えるべき課題、流通との新たな関係づくり~ 国内マーケットの近未来

- 日時 2011年11月28日(月)、29日(火)
- 場所 東京中野 中野サンプラザ (JR中野駅 北口駅前)

参加費 40,000円
早割特価
(10月31日まで申し込み分) **1人30,000円**

プログラム

米国・元NPPC(全米豚肉生産者協議会)会長 **ブライアン・ブラック**

「生き残りをかけた養豚生産者のチャレンジ、夢と現実」

日本ハム(株)執行役員 国内食肉生産事業部長 **多田 賢男**

「豚肉をめぐるグローバルズムに日ハムはこう立ち向かう」

(株)クレスト会長 **栗木 鋭三**

「えさ高・相場安時代に入った国内養豚の緊急課題」

(有)ブリッジインターナショナル代表 **高橋 寛**

「国内で静かに進む養豚産業のインテグレーション」

スワイン・エクステンション&コンサルティング代表 **大竹 聡**

「米国養豚の最新トピックス」

◇総合ディスカッション

同時開催 養豚資材展

豚舎設備、種豚・AI関連資材、環境関連資材、動物用医薬品、機能性飼料など、最新の養豚資材を隣接会場で多数展示
※ブース出展をご希望の会社は、下記にお問い合わせください。

主催 (株)ビッグフォーラム22 E-mail: pigforum22@gmail.com
(株)アニマル・メディア社 〒113-0034 東京都文京区湯島2-12-5 TEL 03-3818-8501
(有)ベネット 〒164-0001 東京都中野区中野5-32-4 TEL 03-5913-2627

養豚国際フォーラム2011

激動する世界の豚肉事情と国内マーケットの近未来

～国内養豚が乗り越えるべき課題、流通との新たな関係づくり～



前回のフォーラムより

養豚国際フォーラム2011 タイムテーブル

日・時	1日目 (11月28日(月))							2日目 (11月29日(火))						
	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
ホール	受付・展示開始	ブラック氏講演 大竹氏 情報提供		休憩	多田氏講演	懇親会開始		展示開始	高橋氏講演	栗木氏講演	昼食・休憩	ブラック氏講演	休憩	総合討論
展示会場	養豚資材展							養豚資材展						

- 11月28日(月) 12:00 受付・ブース展示開始 13:00 講演開始 18:00～懇親会
- 11月29日(火) 8:30 ブース展示開始 9:00講演開始 16:30終了

※プログラムは諸般の事情により変更する場合があります。ご了承ください。

3年ぶりとなります養豚国際フォーラムは、今回で5回目となります。海外から招くブライアン・ブラック氏は、ご記憶の方もおられると思いますが、2005年、第1回の養豚国際フォーラムで来日いただいたオハイオ州の養豚生産者です。当時も既にNPPC(全米豚肉生産者協議会)の理事を務めていましたが、その後、若くしてNPPC会長職まで務められました。前回から6年を経過するなかで、米国養豚は飼料高騰、新型インフルエンザによる相場の低迷などの試練を経験し、小規模農家のグループ化で生き残りを目指していたブライアン氏自身の経営も、そして産業構造も、大きな変化を余儀なくされました。そんな経験を踏まえた米国養豚の現在の実像、将来に向けて抱える課題を、今回のフォーラムで示していただく予定です。

国内からは、生産者を代表して栗木鋭三氏、大手パッカーを代表して日ハムの多田賢男氏にお話いただくほか、食肉業界に明るい高橋寛氏からは業界で進行する商社を中心とする豚肉産業のインテグレーションの実態に迫っていただく予定です。生産者と流通の関係を、大きな“豚肉産業”というくくりのなかでWin-Winの関係を構築しつつ、対外的な競争力を強化する道があるのか、ないのか。そんな問題意識をもつての布陣となっています。

一步先を見極める者が次の時代の業界を制します。お聞き逃しなく!



FORUM IN NAKANO

■ 演者紹介

生き残りをかけた養豚生産者のチャレンジ、夢と現実

ブライアン・ブラック氏

米国生産者・元NPPC 会長

オハイオ州で3代続く養豚農家に生まれたブラック氏は、1980年にオハイオ州の農業技術大学養豚学部を卒業して4代目として農場経営を継承。母豚300頭の繁殖農場を中心とする米国においては小規模の経営が、同じ中小の生産者とグループを組んで飼料の供給からと畜まで行うという取組のその後、そしてNPPC会長として奔走するなかでつかんだ米国養豚産業の実態と課題、などについて話していただく。

豚肉をめぐるグローバリズムに日ハムはこう立ち向かう

多田 賢男氏

日本ハム(株) 執行役員 国内食肉生産事業 部長

長年、輸入部門に携わった多田氏は、今、国内生産事業を統括する事業部長を務める。米国にも養豚生産拠点をもち一方で、国内では日本最大、母豚3万頭規模の農場を擁するほか、それを上回る豚をグループ外から買入れ・流通させている。“ハム”の顔をもちながら国産豚肉のと畜・流通にも大きな役割を果たしている国内最大のパッカーが、国際競争にさらされながら、どんなジレンマを抱えて将来のビジョンを描き事業展開しようとしているのか、忌憚のない意見を聞かせていただく。

「養豚資材展」セミナー会場に隣接する特設会場において同時開催する関連メーカーのブース展示



前回のブース展示

●前回の協賛企業(出展時の社名50音順)

アイケイ商事(株)、アキレス(株)、アグリシステム(株)、(株)イーアニマル、伊藤忠林業(株)、イワタニ・ケンポロー(株)、(株)インターベツ(株)、(株)WEDA Japan、オルテックインク東京支店、兼松(株)、カワバタ産業(株)、コスモ食品(株)、三洋貿易(株)、三友機器(株)、ジャステック(株)、(株)セキネ、全農畜産サービス(株)、中部エコテック(株)、豊田通商(株)、(株)新原産業、日環エンジニアリング(株)、日生研(株)、日本全業工業(株)、日本ニュートリション(株)、(株)日本リモノイト工業、物産バイオテック(株)、(株)フローラ、ペーリンガー・インゲルハイム・ベトメディカ・ジャパン(株)、(株)ミライエ、明治製菓(株)、(株)メニコン、(資)友貴千里(こぶたごっこ)、ヨシモトボール(株)

えさ高・相場安時代に入った国内養豚の課題

栗木 鋭三氏 (株)クレスト 会長

採卵養鶏の精密経営を実践しながら養豚に参入し、えさ高時代の到来をいち早く予見して手を打ってきた栗木氏。「私は豚は苦手だから…」と話しながらも、今や養豚も母豚5000頭規模の大型経営となり、グループ全体における重みも増してきた。鋭い先見性と果敢な実行力をもつ経営者が見据えている10年後の養豚産業とは?そこに生き残りをかける戦略とは?率直な思いを語っていただく。

国内で静かに進む豚肉産業のインテグレーション

高橋 寛氏 (有)ブリッジインターナショナル 代表

自ら食肉の輸入に携わった経験を踏まえて豚肉差額関税制度に関する問題提起を第3回のフォーラムで行った高橋氏。今回は、商社、加工メーカー等が軸になって進行する国内養豚・豚肉産業の系列化の実態を報告する。一方で輸入ブランドの推進を図る商社が、国内生産部門のテコ入れにも注力しようとしている読みは何か? TPPをはじめ、養豚産業のみでは、あるいは国内農業全体でも抗いきれない国際化の圧力が迫るなか、国内養豚が生き残っていくための経営戦略、政策課題について提言いただく。

米国養豚の最新トピックス

大竹 聡氏

スワイン・エクステンション&コンサルティング 代表

米国・ミネソタ州に拠点を置く大竹氏。今回はブラック氏の通訳を務めていただく一方で、最近の米国養豚の現状と、獣医療域を中心とした最新知見、業界トピックスを報告していただく。